

本カルテは一つの例であり、これを基に防災上のポイントや必要な対策について、家族や地域の方々と話し合ってみましょう。

①学区の概況と課題

◆学区の概要

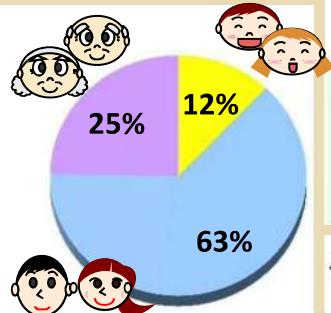
【位置】 岩槻区の中央部に位置している。

【土地利用】 学区内には住宅地が広がっており、中央部北寄りには消防署、西部には区役所、東部には岩槻城があり、元荒川が流れる。

【交通】 学区の南部には国道16号、北部には東武野田線、西部には国道122号が走っている。

◆人口概況 (平成22年国勢調査)

	岩槻中学校区	全市平均
総人口	18,076人	
0-14歳	2,165人 (12%)	(14%)
15-64歳	11,447人 (63%)	(67%)
65歳以上	4,464人 (25%)	(19%)
人口密度	6,551人/km ²	5,766人/km ²



● 全市平均と比較すると、65歳以上の高齢者層が多い。

◆建物概況 (平成23年度さいたま市都市計画基礎調査)

	岩槻中学校区	全市平均
総建物棟数	7,342棟	
木造(昭和46年以前)	1,667棟 (23%)	(17%)
木造(昭和47-55年)	1,052棟 (14%)	(12%)
木造(昭和56年以後)	3,089棟 (42%)	(45%)
非木造(昭和46年以前)	88棟 (1%)	(1%)
非木造(昭和47-55年)	235棟 (3%)	(3%)
非木造(昭和56年以後)	1,211棟 (16%)	(21%)



● 全市平均と比較すると、いわゆる旧耐震基準の木造建物が比較的多い。

さいたま市防災カルテ

岩槻中学校区

岩槻
IWATSUKI

◆学区内被害想定結果

地震	さいたま市直下地震	関東平野北西縁断層帯地震	東京湾北部地震
最大震度	6弱 (5.9)	6強 (6.0)	5強 (5.4)
最小震度	6弱 (5.6)	6弱 (5.6)	5強 (5.0)
死者	4人 (0.0%)	6人 (0.0%)	0人 (0.0%)
負傷者	91人 (0.5%)	110人 (0.6%)	4人 (0.0%)
避難者	1,924人 (10.6%)	2,128人 (11.8%)	100人 (0.6%)
全壊建物棟数	204 棟 (2.8%)	299 棟 (4.1%)	1 棟 (0.0%)
うち焼失棟数	120 棟 (1.6%)	177 棟 (2.4%)	0 棟 (0.0%)
半壊建物棟数	746 棟 (10.2%)	869 棟 (11.8%)	84 棟 (1.1%)
水害	荒川	利根川	江戸川
床上浸水建物棟数	885 棟	367 棟	0 棟
床下浸水建物棟数	716 棟	756 棟	0 棟

*震度のカッコ内は計測震度を、それ以外のカッコ内は学区内の比率を示す。

【地震】 関東平野北西縁断層帯地震では最大震度6強となっており、他の地域と比べ、相対的にはどの地震の場合でも被害率は低い。

【水害】 荒川、利根川が氾濫した場合、地区の15%以上が浸水被害を受ける。

◆防災関連施設情報 (平成26年2月時点)

種別	名称
避難場所	県立岩槻商業高等学校、岩槻中学校、岩槻小学校、太田小学校、岩槻本町公民館、岩槻城市公民館、岩槻本丸公民館、コミュニティセンターいわつき、岩槻城址公園
一時・広域避難場所	
市・区役所等窓口	岩槻区役所
消防署・出張所	太田出張所
警察署・交番	岩槻駅前交番
救急病院	丸山記念総合病院
応急給水場所	岩槻中学校、岩槻本丸公民館

◆被害想定結果からわかる防災上の主なポイント

【耐震化】 古い木造建物が多い地区のため、耐震化率の向上が必要。

【避難】 高齢者層が多く、地域で協力した避難行動・救助活動が必要。

本カルテは一つの例であり、これを基に防災上のポイントや必要な対策について、家族や地域の方々と話し合ってみましょう。

②さいたま市直下地震の想定

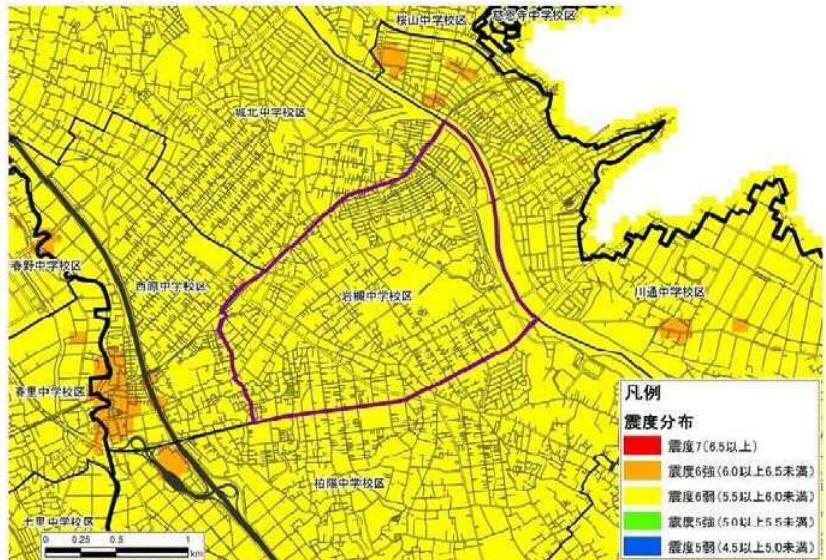
さいたま市防災カルテ

岩槻中学校区

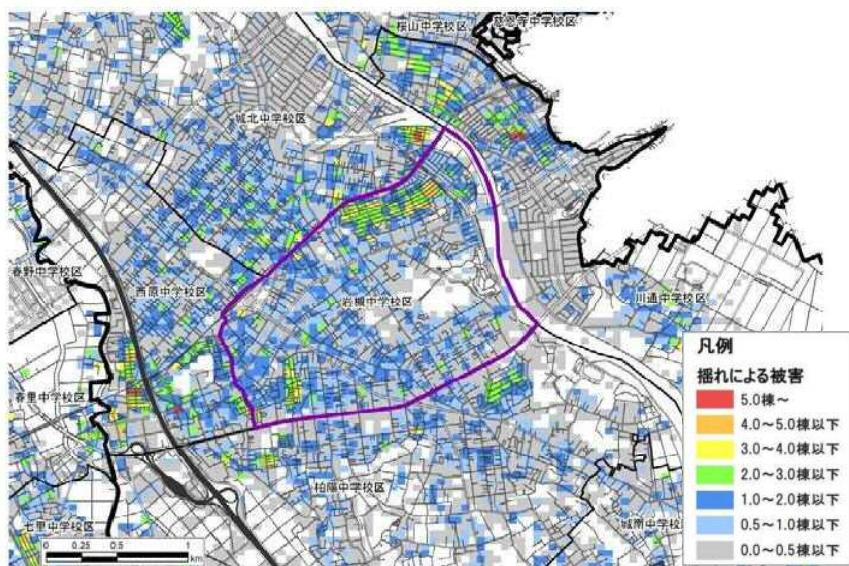
岩槻
IWATRUE



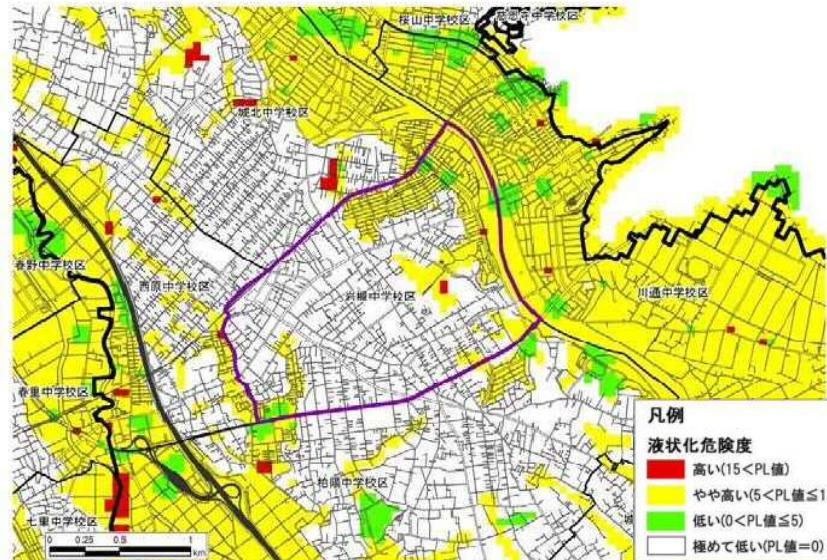
震度分布図



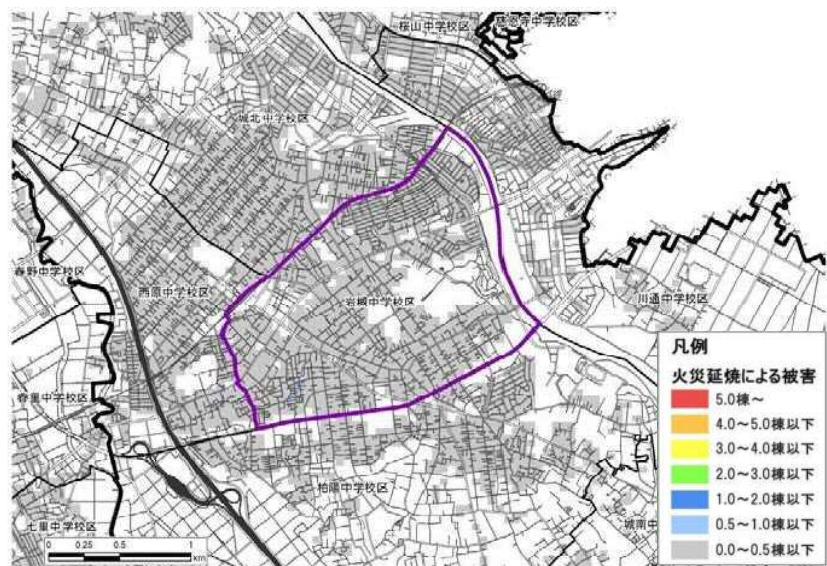
建物被害分布図（揺れによる被害）



液状化危険度分布図



建物被害分布図（火災延焼による被害）



本カルテは一つの例であり、これを基に防災上のポイントや必要な対策について、家族や地域の方々と話し合ってみましょう。

③防災マップ

さいたま市防災カルテ

岩槻中学校区



	避難場所		消防署
	一時避難場所		消防署(出張所)
	広域避難場所		警察署
	市役所		交番・駐在所
	区役所		救急病院
	支所・市民の窓口		応急給水場所

(平成26年2月時点の情報で作成)

×モ欄

